

海の宝をめぐる学びと体験 マリン・ラーニング

CHIBA



海と日本 PROJECT

エビ・カニを もっと知ろう!

野外観察+展示室+実験室で
エビ・カニ・ヤドカリを
学ぼう!



平成 29 年 **8 月 9 日 (水)**

午前 10:00 ~ 午後 3:30

当日が荒天の場合、8月21日(月)
午前 9:00 ~ 午後 3:00 に延期

**参加者
募集中**

千葉県立中央博物館 分館
海の博物館

共催：北海道大学大学院水産科学研究院

※このイベントは、海と日本 PROJECT の一環で実施しています

対象・定員 中学生・高校生、40名

開催場所 千葉県勝浦市吉尾

千葉県立中央博物館分館海の博物館

参加費 無料

(ただし傷害保険料として、
おひとり 50 円が必要です)

詳しくは
裏面へ



夏休みの1日をエビ・カニ・ヤドカリと過ごそう！

「海と日本PROJECT エビ・カニをもっと知ろう！」は、夏休みの1日を使って、エビやカニ、ヤドカリなど、「十脚甲殻類」を楽しく学ぶためのイベントです。自然豊かな房総半島の海で、甲殻類の専門家と一緒にエビやカニの面白さを体験しましょう！

その1 千葉県勝浦の磯でエビやカニを観察しよう！

千葉県の海は北上する暖かい黒潮と南下する冷たい親潮がぶつかり合う海域です。そのため、千葉県の沿岸には南方の生きもの、北方の生きもの、それらの中間である温帯域の生きものが分布しています。夏の勝浦の磯では、温帯性のエビやカニに混じって、遠く沖縄や東南アジアから黒潮によってはこぼれてきた熱帯・亜熱帯性の種類を観ることが出来ます。さまざまな種類のエビやカニを手にすることで、「生物多様性」を体験できること間違いなし！

その2 展示室でエビの世界を満喫しよう！

開催日には、会場となる千葉県立中央博物館分館海の博物館で、企画展示「夏休み海の学びスペシャル エビさんまい」を実施しています。世界最大のエビってどんな種類？エビとシャコはどこで見分けるの？イソギンチャクの毒に守られているエビがいるって本当？などなど、展示を観ながら、さまざまな角度からエビについて学びます。

その3 実験室でヤドカリについてくわしく学ぼう！

ヤドカリは、別の動物の体の一部である貝殻を利用することがよく知られています。しかし、貝殻の中のヤドカリの体がどうなっているのかを観察する機会はなかなかありません。実験室でヤドカリを貝殻から出して、体のつくりを観察しましょう。また、ヤドカリにとって貝殻がどれほど大切なものなのか、簡単な実験をおして学びます。



申込方法

①学校・部活で参加する場合：学校名、代表者（引率教員）名、連絡先、参加する生徒の学年と人数

②個人で参加する場合：参加者名、学年、連絡先、学校名

を明記の上、ハガキ、ファックス、電子メールのいずれかでお申し込みください。

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123 千葉県立中央博物館分館海の博物館

ファックス 0470-76-1821 電子メールアドレス umihaku@chiba-muse.or.jp

申込締切：平成29年7月25日（必着）（申込多数の場合は抽選となります。）

講師紹介

和田 哲

1969年、群馬県生まれ、大阪府育ち。北海道大学大学院水産科学研究院、教授。博士（水産学）。大学は北大、最初の就職先は高知大学、次が熊本大学で、現在は北大。ということで、本州、四国、九州、北海道の4島全てに住んだことがあります。趣味はテニス、好きな動物は犬です。ヤドカリには研究対象として興味を持っています。

奥野 淳兒

1969年、東京都生まれ。千葉県立中央博物館分館海の博物館、主任上席研究員。博士（理学）。甲殻類とのファーストコンタクトは、幼少の折、家族旅行で千葉県御宿を訪れた際に民宿の庭で見つけたアカテガニ。そんなカニが千葉県で絶滅を心配されるようになったことに心を痛め、研究テーマであるエビの分類学と同時に、博物館行事をおして千葉県の自然の大切さを伝えています。

お問い合わせ・交通案内

千葉県立中央博物館分館 海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾 123

電話 0470-76-1133

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU>

